
時線

曲線太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時線

【Nコード】

N3712P

【作者名】

曲線太郎

【あらすじ】

駄文。寒さと感傷のせい。

まだ子供だった頃。自転車に乗れば何処にだって行ける気がした。一種の全能感。それは500円玉が財布の中に入っていた時もそうだし、冬休みに入った時だってそうだった。大晦日に夜更かしをしただけで一步大人に近づいた気がした。あの頃は自分を可能性という言葉で縛り付けはしなかった。そんな言葉すら知らなかったかもしれない。歳をとることの恐ろしさなんて解らなかった。

背が高くなるにつれてだんだんと見通しが良くなっていく。足の速さ。力の強さ。頭の良し悪し。人を惹き付ける人とそうでない人。見えなくていいものまで見えて、いつからか夢をみることを忘れてしまったのか。

そんな成長は望んでいなかった。何時までもぼんやりとした霧の中で、白痴のように飛び跳ねていたかった。怪我なんてしたくなかった。足を抱えて膝小僧だけを眺めていたかった。現実なんて見たくなかった。優しい檻の中で生きていく覚悟は出来ていたはずなのだ。きつと現在の状況は、今までのツケを支払っているとか何とか。誰かが言ったような気がした。誰がそう言ったか。それは多分自分しか解らないのだろうか。

舞い上がった砂で白く濁った海の底のような見通しの悪いこの眼に見える景色も。突き刺さる針金のような寒さも。ペダルを一踏みするごとに突き抜ける耳がちぎれるような痛みも。いつの日かこの感情も、痛みも忘却の彼方に消えてしまうのだろうか。

忘れたくはない。そう強く思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3712p/>

時線

2010年12月8日02時55分発行